

組織目標評価報告書（令和6年度）

7

部局名：

理学部

学域名：

環境生命自然科学学域(理)

部局長名：

市岡 優典

目 標・取 組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
【課題1】学部入試での志願倍率維持(一般選抜2.4倍以上、総合・推薦選抜2.0倍以上)、第3年次編入学入試での定員充足 ・入試状況の分析とともに、入試広報(オープンキャンパス、理学部案内冊子、ホームページ等)を、教育ポリシー改訂の反映を含め、研究や教育の特色で岡山大学理学部を選ぶ受験生が増えるアピールになるよう改善して実施。第3年次編入学については、オンライン説明会も実施。 【課題2】海外学生派遣数(前年度12名)と外国人留学生受入数(前年度18名)の向上、学部学生の英語力向上 ・理学部での国際化教育(海外体験、英語力育成、国際的な研究活動)の体系を学生にとっての指針となるガイドマップとしてまとめ提示。また、海外協定校からの短期留学生受け入れ増を目指すとともに、私費外国人留学生入試等により、留学生受入数を確保。 【課題3】理学部の就職・進学率(3か年平均95.2%)の高水準維持 ・学部3年次に大学院進学と就職活動に関するキャリア展望ガイダンスを実施。各学科での進学・就職活動支援及び進路状況把握の徹底。 【課題4】Target2025教育改革と理学部教育の魅力向上のための取組み ・新しい教育ポリシーの周知、Target2025教育改革の新カリキュラム実施準備(全学交流科目等の新授業担当の準備、カリキュラムマップ作成など)の完了、理学部の「フロンティアコース」「理学系数理解データサイエンスコース」の推進と履修状況の検証。 【課題5】附属臨海実験所：海洋科学関連のグローバル(国際・異/応用分野包括的・地域共創型)教育研究を推進 ・教育関係共同利用拠点「多様な生物・戦略による研究直結型教育のグローバル共同利用拠点」のクロスリアリティーICT/DXの環境を活用したGN等の大学院対象研究直結型実習「先端統合生体制御学国際コース」(米国水産学会長/米国地質調査所上級サイエンティスト招聘ワークショップ等)を、学内外の臨海実習とともに実施。	(2-2) (3-1) (7-1) (2-1) (3-1) (2-1) (3-1) (1-2) (3-1) (7-1)	【課題1】達成：入試・高大接続部門との入試状況の検討会を6月に開催した。入試広報では教育ポリシー改訂の反映に努め、受験生へのアピール向上のため、学生の視点を意識してのホームページ改良など実施した。志願倍率は学校推薦型が3.2倍(前年度2.0倍)総合型選抜が3.7倍(前年度2.5倍)と目標2.0倍を大きく上回った、前期日程は2.8倍(前年度も2.8倍)と目標2.4倍を上回った。第3年次編入学もオンライン説明会を実施した効果もあって定員充足できた。 【課題2】未達成：学部生の海外派遣留学生は4名(前年12名)と減少した。 達成：学部生の外国人留学生受入は前年と同じ18名を維持。「英語で学ぶ専門科目」の導入準備とともに、今後に海外派遣数を増やす対策も含め英語力育成と国際化教育の体系化を検討し、「英語学習ツリー」を作成して国際的活動の推奨とともに学生に提示した。 【課題3】達成：3年次生全員を対象に大学院進学と就職活動についてのガイダンスを実施するとともに、各学科での学生支援と進路状況把握に努めた。令和6年度「成果を中心とする実績状況に基づく配分」指標では就職・進学率は96.3%と増加した。 【課題4】達成：新しい教育ポリシーをホームページに掲載し、次年度の学生便覧等にも掲載する準備を進めている。Target2025の新カリキュラムには全学交流科目20科目と課題探究科目の担当を決め、カリキュラムマップを作成するなど次年度実施に備えた。「フロンティアコース」と「理学系数理解データサイエンスコース」は、それぞれの実施推進室の会議で履修状況等を検証した。後者では、生成AIについての内容を授業に導入するとともに、2年前開設で今年度より卒業時のコース修了認定証授与ができる段階まで進めることができた。 【課題5】達成：附属臨海実験所では、国際化によるソーシアルインパクト創出支援事業の支援も受け、先端統合生体制御学国際コース(左記の他、ソルボンヌ大学、ベルージュ大学、フリードリヒ・シラー大学ほか参加)等を、オンラインで実施した。要である環境DNA実習を、DXの生物情報学等XRの環境強化により取り込むとともに、自走嵌合式AI海中ロボットの開発実習も行った。これらは「ミッション実現戦略分」の教育活動・成果に「データサイエンス/情報学との超分野研究ハンズオン合宿実習「臨海Hack」(デジタル人材育成×臨海実験所)のグローバル化」として選出された。全面改修のため、オンライン/工期の間、周辺施設の利用と大きく制限せざるをえなかったが、延べ5千人/年の全国トップレベルの利用を維持した。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
【課題1】地域の高等学校・高等専門学校の理科教育・キャリア教育への貢献 ・高校生の理科・数学の課題研究への指導や講評の機会に、これまで同様理学部教員が積極的に参画することに加え、高校理科部会総会の理学部での開催の機会等で、高校教員や教育委員会との意見交換の場を設ける。また、高等専門学校生の研究インターンシップ受入プログラムを実施。 【課題2】岡山大学理学部の教育・研究の良さを社会に伝え理解を深めてもらう ・公開講座を2回開催し、うち1回はホームカミングディ企画として実施。 【課題3】附属臨海実験所：異分野融合研究の地域共創DXリソース、及び、自治体、企業/経済界等との異職種ネットワークの構築と拠点としての実質化 ・地域の海洋河川の生態系デジタル情報の環境DNAデータ等を含む生物材料、研究機器の学外利用等を推進する。これらを基に、特電委託グループ研究の継続獲得を目指す。 ・瀬戸内市の臨海多様性プロジェクトリーダーが常駐する体制を維持し、地域をパートナーとした研究を発展させる。また㈱ハイドロウィーナス(岡山大発ベンチャー)参画を基に、海洋発電の影響等の共同研究を、関電工/東電HDと実施する。さらに、ゲノム関連技術等による先進的な水産育種技術の産学共同開発も開始する。	(1-1) (6-1) (14-1) (6-1) (1-1) (12-2)	【課題1】達成：5月の岡山県高校理科部会総会の機会に高校理科教員らと理学部教員の意見交換の場を設けた。1月には岡山県理数科課題研究発表会に理学部教員が講評審査や助言を担当し高校生課題研究の向上に寄与した。臨海実験所は、高校生マリンチャレンジプログラム2024中国・四国大会審査に貢献した。教員による高校での理科・数学の出前授業や課題研究助言等への参画も多く実施された。高専生の研究インターンシップは5プログラムで計12名(昨年は3プログラムで計5名)と前年より多く受入れ実施した。 【課題2】達成：2つの公開講座「エネルギーと環境問題への挑戦～夢は実現可能か～」と「宇宙のはじまりを見る」を開催した。前者はホームカミングディに遠隔地のOBも受講できるよう今年度はオンライン併用で実施し、実験の演示もあり好評であった。 【課題3】達成：附属臨海実験所では、基盤研究(S)や特電委託グループ研究の3連続獲得も基にした、地域のDNA資源データを招待講演等で県知事にも発信し、環境アセス/建設コンサルとの産学連携でも提供している。附属臨海実験所に瀬戸内市の臨海多様性プロジェクトリーダーが常駐する体制を維持し、「環境フェスティバル瀬戸内」で広く発信している。㈱ハイドロウィーナス(岡山大発ベンチャー)と関電工/東電HDの海洋発電の影響評価等のオーダーメイド型データ提供サービス事業を開始した(東電HD共同研究費など)。また特電委託単独研究等で、水産直連技術の産学共同開発も開始した。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
【課題1】上位職(教授・准教授)の女性教員数の向上、及び、若手教員割合(2023年度13.6%)と女性教員割合(2023年度12.1%)の向上 ・女性の教授数が増えるよう人事を実施。また、採用人事(特任や研究助教を含む)は、研究力強化の観点とともに、若手や女性の教員増にも配慮して実施。 【課題2】理学部内のインナーブランディング向上のための学部内企画の推進 ・毎月の理学部全教員参加の教授会・協議会(オンライン実施)の前に「理学部研究交流セミナー」(主に若手教員が研究紹介)やFD研修会を実施。 【課題3】臨海実験所の全学センター化を目指した海洋科学に関する全学的な教育研究の組織体制構築 ・グローバルエンゲージメントオフィスの国際拠点として、ブルーカーボン関連等の研究で国際連携を強化するため、ソルボンヌ大学ロスコフ部門長を招聘する。台湾・中央研究院、ウィーン大学とも、ボストク、研究助教(女性)リーダー育成海外派遣事業)派遣等により連携する。さらに、国際マリンステーション機構×ユネスコIOC初の対面国際会議@静岡にコミットし、連携を構築する。 ・学内外の海洋科学関連研究者との共同研究拠点強化のため、全面改修を行い初「ゼロ・エネルギービル」化も実現する。産学連携ラボ・地域連携ラボ・オープンラボ(被災支援)・外国人研究者/客員教授等のゲストハウス等も設ける。	2. 2)① (9-2) (3-1) (9-2) (11-2) (1-2) (8-1)	【課題1】達成：女性教員割合13.0%、若手教員割合17.3%で前年度より増加した(5.1時点)。ただし、その後の転出者があるので今後の採用のための活動を進めている。採用人事では女性限定公募を実施するなど、研究力向上とともに女性や若手の教員増にも配慮して人事を進めた。女性教授は1人→3人と増加した。次年度に臨海実験所長、教務・学生支援委員長、附属工場長を女性教員が担当することを決め、理学部運営の要職での女性教員の担当を進めている。 【課題2】達成：「理学部研究交流セミナー」6回、FD研修会3回(学長との意見交換会を含む)をオンラインで実施。「理学系の研究推進のためのURAセミナー」を対面で実施。 【課題3】達成：附属臨海実験所は、①岡山大学のカーボンニュートラル研究拠点にも継続選定され、特電委託グループ研究の連続獲得も基に、ブルーカーボンのDX研究／エ・教育学部との共同といった全学的な研究体制構築を進めた。②国際連携は、ソルボンヌ大学ロスコフや台湾中央研究院の部門長招聘のワークショップも実施した。これらに加え、ウィーン大学、ベルージュ大学には、女性研究助教、ボストクを派遣し、共同研究を進めた。Earth BioGenome Projectや世界トップの調査船を擁する Tara Océan との連携も継続した。国際マリンステーション機構への日本の関連施設の連携等は、国連 Decade of Activity として承認された。③初「ゼロ・エネルギービル」化、連携ラボ、ゲストハウスを含む全面改修も行った。 【新たな課題】11月開催の理学部学生・教員FD検討会で学生から出された意見を考慮し、早急な改善が必要なものとして、講義室近くの女子トイレの洋式化3箇所と講義室8室でのPC用電源コンセント増設を実施し、学生の学ぶ環境の改善に努めた。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。